

## ．この冊子の使い方

### 1．プログラムのカテゴリー

環境教育の対象となる領域は非常に広範囲であり、また児童の発達段階によっても大きな違いがあります。本書では、小学校の先生方が環境教育を実施するにあたって、参考となるプログラムを5つのカテゴリーに分けました。まず、「1.自然体験（生き物・みどり）」では動物や植物などに親しみ、その体験を通して環境保全の大切さを理解するプログラムを数多く紹介し、「2.水・空気・土」では調査活動などを通して、生き物を取り巻く無機的环境について学ぶプログラムとしています。また、「3.ごみ・リサイクル」では廃棄物の減量化や再利用・再生利用、「4.資源・エネルギー」では省資源・省エネルギー、「5.衣食住・地域社会」では食やライフスタイルの基礎的な学習など、それぞれ私たちの生活に直接関わるプログラムを取り扱っています。

### 2．各プログラムの構成

本書は、基本的に小学校指導者用として作成し、各プログラムはテーマ以下、原則として次の項目順で構成されています。（一部、関連事例はトピックとして掲載。）

- |              |          |          |          |
|--------------|----------|----------|----------|
| 1．学習のねらい     | 2．実施について | 3．準備するもの | 4．学習の進め方 |
| 5．指導上の工夫・留意点 | 6．参考資料   | ワークシート   |          |

また、一つのプログラムを単独で扱う場合を想定し、できるだけ一話完結型となるように作成しました。ただし、通常の学習指導案のような、校時ごとの形式になっていませんのでご承知願います。また、ワークシートは加除修正を必要とするものもありますが、できるだけ授業等ですぐに利用できるよう作成しました。必要に応じて増し刷りして使用してください。

なお、学期や年間の環境学習に関する指導計画を作成する際にも、本書を参考にいただければ幸いです。

### 3．プログラム活用の実際

学校において環境学習を行う機会は、総合的な学習の時間を中心に生活科や理科、社会科や家庭科、体育科などの各教科や道徳、児童会やクラブ活動、学校行事などの特別活動が想定されます（巻末参照）。この冊子では、基本的にこれらの時間の枠にとらわれないプログラムを紹介しました。それぞれの地域の特性や子どもたちの実態に合わせ、必要に応じて内容を取捨選択し、整理改変するなど、独自の工夫を凝らしながら使用してください。

なお、プログラムによっては危険をとまなうものもありますので、事前の下見や予備実験などを含め、子どもへの安全上の配慮には十分留意してください。

#### 指導者の心得

指導者は、体験を重視した多様なプログラムへの取組を通じて子どもたちと関わり、子ども自らがどうすべきかを考え、選択し、行動できる能力を身につけるためのサポートに心がけます。つまり、環境を単なる知識として伝達するのではなく、主体的で体験的な活動を通し、共感して「心をゆり動かす」ことが大切です。そのためには、指導者自らが環境保全活動を実践するとともに、日々、環境教育に関する研鑽を積み、そのための知識・技能を高めていくことが望まれます。